



小学一年生から二年生の時期にむし歯が急増

市内小学生のむし歯実態調査

六月四日から十日まで、市の衛生週間です。市は、このほど現在の子どものむし歯の現状を知るとともに、今後のむし歯予防対策への手がかりとするため、昭和五十三年度の市内小学生のむし歯の実態調査をまとめました。

三訂となつていきます。

この実態調査では、昭和五十三年度に歯科検診を受けた市内十三校の小学生三千三百二十四人（男子千七百二十九人、女子千五百九十五人）を対象に、むし歯の状況、むし歯の年次推移、むし歯の問題点などについて調べたものです。

これによると、小学生のむし歯のようすは、全体の七一・八割にあたる二千三百八十八人がむし歯にかかっており、男女別では、男子千六百七・八割、女子千七百・二割がむし歯にかかっています。また一人平均のむし歯の数は、二・三本

市内小学生のむし歯の状況（学年別）

学年	受検人数	むし歯の割合（％）	一人当たりのむし歯数
1年	641	31.5	0.6
2年	584	60.8	1.4
3年	579	79.6	2.2
4年	531	85.9	2.8
5年	541	91.3	3.5
6年	448	93.8	4.3
合計	3,324	71.8	2.3

生から二年生にかけて二倍に増えており、小学生がむし歯になるピークであることがわかっています。また、六歳臼歯がむし歯になる要因を考えてみますと、永久歯のうち一番はやくはえる。奥の方に

むし歯にかかっている者の変化（46～53年）

年度	平均	男子	女子
46	81.0%	— %	— %
47	80.0	—	—
48	77.7	73.7	82.1
49	74.4	70.2	79.0
50	75.8	71.3	80.9
51	74.3	71.2	78.1
52	73.2	70.6	76.2
53	71.8	67.8	76.2

地域社会に認められる青年団をめざして

54年度の連合青年団役員と地区団長

南州市連合青年団も発足して今年で満二十年を迎えます。先輩が築き培ってきた輝かしい実績と誇りは、現在では数々の困難な問題が山積みしているように思

みる必要があることを痛切に感じています。つまり、不振の要因や背景を正確につかまなければならぬと思います。また、団員減少の問題とともに大いに関連があり、しかも大きな課題として地域社会に青年団の存在をいかに理解してもらうかという問題があります。地域社会と青年団

- ◇ 会長 岡田広志（三和） 電話 1063
- ◇ 副会長 北村明徳（十市） 電話 2519
- ◇ 事務局長 橋田和枝（大篠） 電話 3050
- ◇ 会計 小松信介（日章） 電話 2741
- ◇ 監査 藤村 治（岡豊） 電話 1289
- ◇ 中務協役員 西本良平（瓶岩） 電話 2908
- ◇ 十市 中沢広志（十市） 電話 2397
- ◇ 三和 小野山 明（浜改田） 電話 3384
- ◇ 日章 福留敬寿（立田） 電話 1466
- ◇ 大篠 小松靖幸（大地） 電話 3659
- ◇ 岡豊 藤村 治（岡豊町八幡） 電話 1289
- ◇ 国府 岡田直人（国分） 電話 1274
- ◇ 久礼田 野口修孝（久礼田） 電話 0192
- ◇ 瓶岩 原 道宏（安崎） 電話 1304
- ◇ 奈路 山本幸輝（上倉） 電話 27363

青年団リーダー育成研修会

五月十二、十三日の二日間、県立香北青年の家に市内の青年六十人が参加して「青年団リーダー育成研修会」が開かれました。

この研修会は、青年団リーダーとしての望ましいあり方と地域での青年団活動のあるべき方向をさぐることを目的に開かれたもので

6月10日(日)は…
一斉清掃の日です。
市民のみなさん、ご協力ください。

